

1 食料等の生産活動及び森林等の多面的機能についての県民の理解と活動の促進

(1) 情報の交流

[農林水産情報の交流促進]

①目標と実績		平成17年度 2005年度	平成18年度 2006年度	平成19年度 2007年度	平成20年度 2008年度	平成21年度 2009年度	平成22年度 2010年度	関係課	
小中学校等における森林環境学習の受講者	目標	年500人	—————▶						林務課
	実績	584人	619人	588人	578人	*	*		
総合治水推進週間関連イベントの開催	目標	(開催)	—————▶						西三河・知立建設事務所
	実績	(開催)	(開催)	(開催)	(開催)	*	*		

②取り組みの概要

[小中学校等における森林環境学習の受講者]

森林学習講座を中学校・小学校に対して、延べ計9回実施し、受講者は578人でした。

[総合治水推進週間関連イベントの開催]

ビジュアルボードの展示により森林、農地等の役割を紹介しました。また、流域親子フォーラムを開催し、親子に森林、農地、ため池の機能を説明しました。

[食生活に関する知識の普及啓発]

(いずれも累計)

①目標と実績		平成17年度 2005年度	平成18年度 2006年度	平成19年度 2007年度	平成20年度 2008年度	平成21年度 2009年度	平成22年度 2010年度	関係課
栄養成分表示店の指定拡大	目標	(1,600件)	(1,900件)	(2,200件)	(2,400件)	(2,700件)	(3,000件)	保健所
	実績	(1,547件)	(1,663件)	(1,778件)	(1,364件)	*	*	

②取り組みの概要

アンケート結果による表示方法等の見直しを行い、保健所による研修会、講習会で周知するとともに、ホームページに栄養成分表示店を掲載し、PRを図りました。

※栄養成分表示店は、平成20年度から食育推進協力店に拡充されました。

[ふれあいの場情報の提供]

(いずれも累計)

①目標と実績		平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	関係課
		2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	
「農、山、海の幸づくりルート」(観光ルート)の開発	目標	—	1ルート	2ルート	3ルート	4ルート	5ルート	農政課
	実績	—	3ルート	7ルート	10ルート	*	*	
観光農業、農山漁村の自然、風景、人、食、文化等のデータ登録	目標	—	41件	————→				農政課
	実績	—	86件	163件	164件	*	*	

②取り組みの概要

[農、山、海の幸づくりルートの開発]

碧海地域内を対象に、「かつての衣浦東浜を南にたどる」、「明治用水により拓かれた碧海大地の今をたどる」、「開かれた碧南台地を自転車めぐる」の3ルートを作成しました。

[観光農業、農山漁村の自然、風景、人、食、文化等のデータ登録]

市町から追加データについて推薦があり、1件追加登録しました。登録された内容をルート作成に活用しました。

(2) ふれあいの場づくり

[交流施設の整備等]

①目標と実績		平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	関係課
		2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	
漁港区域内緑地の整備	目標	(—)	(—)	(—)	(17,000㎡)	————→		西三河建設事務所
	実績	(—)	(—)	(—)	(17,000㎡)	*	*	

②取り組みの概要

一色漁港の緑地施設の整備が完了し、平成20年度から供用を開始しました。

[花と緑のある暮らしづくり推進]

①目標と実績		平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	関係課
		2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	
花壇コンクールの参加小中学校	目標	年15校	————→	年16校	————→			農政課
	実績	15校	17校	17校	15校	*	*	
学校関係緑化コンクールの参加小中高等学校	目標	毎回2校	————→					林務課
	実績	2校	3校	4校	2校	*	*	

②取り組みの概要

[花壇コンクールの参加小中学校]

教育事務所と連携を図り、参加の働きかけを行いました。管理作業の負担が大きい等の理由により、昨年度より参加校が2校減少しました。

[学校関係緑化コンクールの参加小中高等学校]

市町教育委員会と連携して、コンクール参加に関する啓発活動を行いました。
環境緑化；小豆坂小学校、常磐東小学校

(3) 県民活動の促進

[消費者、生産者等の協働活動の推進]

(累計)

①目標と実績		平成17年度 2005年度	平成18年度 2006年度	平成19年度 2007年度	平成20年度 2008年度	平成21年度 2009年度	平成22年度 2010年度	関係課
いいともあい ちネットワー クの拡大	目標	55会員	59会員	62会員	65会員	→	→	農政課
	実績	57会員	64会員	79会員	104会員	*	*	

②取り組みの概要

地産地消に理解のある食品製造業、飲食店、商工会議所、商工会を中心に推進を図り、25会員増加することができました。

本年度は、スーパー、飲食店などを中心に会員の拡大を図ります。

[地域の森づくりの推進]

(累計)

①目標と実績		平成17年度 2005年度	平成18年度 2006年度	平成19年度 2007年度	平成20年度 2008年度	平成21年度 2009年度	平成22年度 2010年度	関係課
「愛知万博」 を記念した森 づくりなどの 活動支援	目標	1グループ	→	2グループ	→	3グループ	4グループ	林務課
	実績	2グループ	2グループ	2グループ	2グループ	*	*	

②取り組みの概要

管内2グループに対し、森林整備方法等についての支援を行いました。

[地域住民一体による食と緑を活用した地域づくり]

(累計)

①目標と実績		平成17年度 2005年度	平成18年度 2006年度	平成19年度 2007年度	平成20年度 2008年度	平成21年度 2009年度	平成22年度 2010年度	関係課
モデル的な地 域づくりの取 り組み	目標	1地区	→	→	→	→	→	農政課
	実績	1地区	1地区	1地区	1地区	*	*	

②取り組みの概要

西尾市の農村活性化プロジェクトチーム「憩いの農園」に参画し、計画作成の支援をしました。

本年度も、市との情報交換を図りながら計画の支援をします。

[食育指導者等の育成]

(累計)

①目標と実績		平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	関係課	
		2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度		
「豊かな食と農の伝道者」の育成	目標	13人	→						普及課
	実績	18人	18人	18人	18人	*	*		
水産業体験活動指導者の育成	目標	(3人)	→	(6人)	→	(10人)	→	水産課	
	実績	(3人)	(3人)	(6人)	(6人)	*	*		

②取り組みの概要

[「豊かな食と農の伝道者」の育成]

農産物加工技術や農産物栽培技術の優秀な農業者を「食と農の伝道者」として登録された中から、小学校等に派遣し、児童等の農業体験や食育を支援しました。

なお、平成20年度の派遣実績は次のとおりです。

- 9月5日：一色町一色西部小学校 食材の工夫と箱寿司づくり
- 10月23日：幸田町豊坂小学校 幸田のなすと料理実習
- 11月20日：碧南市日進小学校 大豆のお話と豆腐づくり等
- 11月26日：安城市安城西部小学校 安城のお米と米料理

[水産業体験活動指導者の育成]

愛知県漁業士協議会等が主催する料理特別セミナーに水産業体験活動者が参加し、愛知の水産物について情報発信を行いました。

[流域森林・林業活性化センターへの支援]

①目標と実績		平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	関係課	
		2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度		
森林整備や三河材利用促進のための研修会開催の支援	目標	年1回	→						林務課
	実績	0回	1回	1回	1回	*	*		

②取り組みの概要

高性能林業機械3セットを使った低コスト木材生産の実演及び説明、普及PRを行いました。

日時：平成21年3月16日 場所：岡崎市切山町、千万町

[海・川等の清掃活動の支援]

①目標と実績		平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	関係課
		2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	
漁業者と県民による海や川のクリーンアップ活動の支援	目標	年7か所	→				→	水産課
	実績	7か所	7か所	7か所	7か所	*	*	
河川や水路の清掃、除草活動への参加者	目標	年500人	→	年800人	年1,200人	年1,600人	年2,000人	建設課
	実績	512人	473人	739人	1,457人	*	*	

②取り組みの概要

[漁業者と県民による海や川のクリーンアップ活動の支援]

漁場、沿岸及び河川に堆積した廃棄物の清掃を、各市町が漁協の協力を得てクリーンアップを7か所で実施しました。

- ・実施市町～岡崎市(2か所)、碧南市、安城市、西尾市、一色町、幡豆町

[河川や水路の清掃、除草活動への参加者]

国土交通省の主唱による「川と海のクリーン大作戦」関連行事として、豊田市水源町地内にある明治用水頭首工の上・下流約1kmのゴミ拾い及び分別活動を実施しました。

- ・10月25日(土) 三河地区明治用水会場 参加者330人

安城市内で開催したウォーキング大会において、参加者に明治用水の緑道沿線のゴミ拾いに協力いただき、チェックポイントにおいて回収・分別活動を実施しました。

- ・10月26日(日) 第10回明治用水緑道ウォーキング 参加者96人
- ・地域活動として岡崎市の山綱川で、167人(6月8日)、刈谷市の前川で、35人(12月6日)が、ゴミ拾いの活動を実施しました。また、4月～9月まで、一色排水路、古川用水路で829人が清掃活動に参加しました。

2 安全で良質な食料等の持続的な生産と供給の確保

(1) 食品の安全管理の推進

[栽培・飼養管理の適正化]

①目標と実績		平成17年度 2005年度	平成18年度 2006年度	平成19年度 2007年度	平成20年度 2008年度	平成21年度 2009年度	平成22年度 2010年度	関係課	
家畜疾病の監視検査の実施	目標	(2,280頭・羽)	(2,220頭・羽)	(2,160頭・羽)	(2,100頭・羽) <4,360>	(2,040頭・羽) <4,180>	(2,000頭・羽) <4,180>	中央家畜保健衛生所	
	実績	(5,052)	(4,634)	(4,574)	(4,230)	*	*		
農薬使用者を対象とした講習会受講者	目標	年4,150人	—————→						普及課
	実績	5,729人	12,798人	5,167人	4,308人	*	*		

②取り組みの概要 ※<>内の数値は、全国一斉サーベランス実施に伴う目標数値
[家畜疾病の監視検査の実施]

24ヶ月齢以上の死亡牛全頭のBSE検査を実施するとともに、牛事故率の改善を指導しました。なお、死亡数は減少しています。HPAI監視検査は、採卵鶏農場全戸の清浄性を確認しましたが、廃業農家の増加により検査羽数が減少しました。

上記の他、HPAI発生に伴い、2,500羽を追加調査しました。

[農薬使用者を対象とした講習会受講者]

ポジティブリスト制度が施行されたことから、昨年度に引き続き農薬の安全使用を図るため、農薬飛散防止対策講習会や資料提供等を通じて農薬の適正使用を指導しました。講習会の開催回数は301回です。(碧海地域95回、岡額地域148回、西尾幡豆地域58回)

[農産物環境安全推進マニュアルの策定]

①目標と実績		平成17年度 2005年度	平成18年度 2006年度	平成19年度 2007年度	平成20年度 2008年度	平成21年度 2009年度	平成22年度 2010年度	関係課
農産物環境安全推進マニュアルの導入	目標	—	—	1産地	3産地	4産地	5産地	普及課
	実績	—	2産地	3産地	14産地	*	*	

②取り組みの概要

安全・安心な農産物への高まりから、JAあいち中央人参部会、玉葱部会、ナス部会を始め14組織が、農産物環境安全推進マニュアルを導入しました。

[生産情報の提供]

①目標と実績		平成17年度 2005年度	平成18年度 2006年度	平成19年度 2007年度	平成20年度 2008年度	平成21年度 2009年度	平成22年度 2010年度	関係課
トレーサビリティシステムの導入	目標	(2品目)	(3品目)	→				農政課
	実績	(2品目)	(2品目)	(3品目)	(3品目)	*	*	
農業協同組合生産部会員の生産履歴情報のデータベース化	目標	77%	82%	86%	90%	95%	100%	農政課
	実績	96%	95%	99%	98%	*	*	

②取り組みの概要

[トレーサビリティシステムの導入]

牛の個体識別情報管理の徹底化を図るために、耳標装着確認等について現地指導を行うとともに、豚及び鶏卵のモデル団地への指導を行いました。

[農業協同組合の生産部会員の生産履歴情報のデータベース化]

消費者の食の安全・安心の関心は高く、信頼を確保するための生産履歴の記帳を推進し、記帳を終えた農協の生産部会員の割合は98%となりました。

記帳指導等は、経済連→農協→部会員で実施しました。

なお、記帳者の総数は増加しましたが、出荷者数も増加したため、記帳率は1ポイント低下しました。

[食品の表示や安全性の監視・検査の実施]

①目標と実績		平成17年度 2005年度	平成18年度 2006年度	平成19年度 2007年度	平成20年度 2008年度	平成21年度 2009年度	平成22年度 2010年度	関係課
食品の品質表示状況調査の実施	目標	年104店舗	→					農政課
	実績	104店舗	104店舗	105店舗	111店舗	*	*	
食品表示ウオッチャーの配置	目標	年20名	→					農政課
	実績	20名	21名	20名	20名	*	*	
貝毒検査の実施	目標	(年5回)	→					水産課
	実績	(6回)	(5回)	(5回)	(9回)	*	*	

②取り組みの概要

[食品の品質表示状況調査の実施]

食品表示や安全性の監視・検査のため、4回に分けて111店舗の品質表示状況調査を計画的に実施しました。

今年度も、食品表示や安全性の監視・検査のため4回に分けて目標の104店舗を上回る店舗の品質表示調査を実施します。

[食品表示ウオッチャーの配置]

食品販売店の食品表示の監視のため、食品表示ウオッチャー20名を平成20年5月29日に依頼しました。

今年度は、昨年を上回る28名の食品表示ウオッチャーを依頼し、引き続きウオッチャーからの情報に基づき、食品表示の適正化に努めます。

[貝毒検査の実施]

貝毒検査を3月から5月に9回実施しました。また、貝毒の原因となるプランクトンの発生状況調査を8回実施しました。

(2) 品質や生産性を高める技術の開発・普及とIT化の推進

[ハイテク農業の推進]

(いちごの高設栽培及び野菜・花きの養液土耕栽培は累計)

①目標と実績		平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	関係課
		2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	
酪農搾乳ロボット等の導入(大規模飼養農家(搾乳牛100頭以上)の導入率)	目標	25%	→	40%	→	→	→	農政課
	実績	25%	25%	50%	75%	*	*	
トレーサビリティシステムの導入(再掲)	目標	(2品目)	(3品目)	→	→	→	→	農政課
	実績	(2品目)	(2品目)	(3品目)	(3品目)	*	*	
農業協同組合生産部会員の生産履歴情報のデータベース化(再掲)	目標	77%	82%	86%	90%	95%	100%	農政課 普及課
	実績	96%	95%	99%	98%	*	*	
いちごの高設栽培	目標	109戸	112戸	114戸	116戸	118戸	120戸	普及課
	実績	114戸	113戸	119戸	120戸	*	*	
野菜・花きの養液土耕栽培	目標	37戸	42戸	46戸	49戸	56戸	63戸	普及課
	実績	37戸	44戸	48戸	50戸	*	*	

②取り組みの概要

[酪農搾乳ロボット等の導入]

管内に大規模飼養農家は4戸あり、うち搾乳ロボット導入農家は1戸、ほ乳ロボット導入農家2戸です。補助金、制度資金の活用による導入を引き続き推進しました。

[トレーサビリティの導入]

前掲(P21)参照

[農業協同組合生産部会員の生産履歴情報のデータベース化(再掲)]

前掲(P21)参照

[いちごの高設栽培、野菜・花きの養液土耕栽培]

栽培の省力化と生産の安定を図るために、意欲ある農業者を重点的に推進し、いちごの高設栽培や促成ナス、キクの養液土耕栽培の導入を図りました。

[優良種苗、種畜の安定供給]

①目標と実績		平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	関係課
		2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	
種子更新率の向上(水稻の種子更新率)	目標	54%	61%	67%	73%	79%	85%	農政課 普及課
	実績	70%	83%	83%	86%	*	*	
種子更新率の向上(麦の種子更新率)	目標	85%	87%	90%	93%	96%	100%	農政課 普及課
	実績	96%	100%	100%	100%	*	*	
種子更新率の向上(大豆の種子更新率)	目標	42%	44%	46%	48%	49%	50%	農政課 普及課
	実績	45%	47%	45%	48%	*	*	
乳牛の年平均乳量(1頭当)	目標	8,400kg	8,500kg	8,600kg	8,700kg	8,800kg	8,900kg	農政課
	実績	8,000kg	8,090kg	8,208kg	8,292kg	*	*	
豚の系統豚利用率	目標	69%	70%	71%	72%	74%	76%	農政課
	実績	66%	71%	72%	74%	*	*	

②取り組みの概要

[種子更新率の向上]

水稻：「売れる米づくり」推進方策のひとつとして、品種の明らかな良質種子の利用推進に努めており、種子更新率は年々増加傾向にあります。

麦：当地域は、県内における麦の主産地であり、従来からの「農林61号」に加え、「イワイノダイチ」が増加傾向にあります。高品質麦の生産の種子更新率を維持しています。

大豆：実需者の求める高品質大豆生産のため、オペレーターを中心に種子更新の働きかけを実施していきます。

[乳牛の年平均乳量]

減産型の計画生産は緩められたものの、飼料の高騰により、酪農家の経営体力が減退し、乳牛の淘汰更新が進まなかったため、目標数値には届きませんでした。

[豚の系統豚利用率]

系統豚利用事業者は全31戸中、23戸です。特に、デュロック種の新系統豚（アイリスナガラ）の利用をPRしました。

[農林水産業の技術的支援]

①目標と実績		平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	関係課	
		2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度		
普及情報ネットワークでの情報提供	目標	(年40万件)	(42.5万件)	(45万件)	(47.5万件)	(50万件)	(年52.5万件)	普及課 林務課 水産課	
	実績	(56.7万件)	(130万件)	(141万件)	(117万件)	*	*		
技術等の普及推進（農業：普及事項）	目標	年90	→					→	普及課
	実績	112	128	111	90	*	*		
技術等の普及推進（林務：重点普及課題）	目標	年15	→					→	林務課
	実績	14	15	15	15	*	*		
技術等の普及推進（水産：重点普及課題）	目標	年4	→					→	水産課
	実績	4	4	4	4	*	*		

②取り組みの概要

[普及情報ネット]

普及情報推進会議を開催し、ネットワーク会員の加入促進（1,426人→1,493人）を図るとともに、普及に係わる情報784件を会員1,493人に提供しました。

[農業]

各部門ごとに重点課題を掲げ、効果的・効率的な普及活動を展開しました。
なお、到達目標を達成した普及事項もあることから、指導実績は減少しています。

[林務]

20年度林業普及指導、重点事項に基づき、重点課題を設定し、技術等の普及啓発を行いました。

[水産]

漁業者に対して、クルマエビの栽培漁業、アサリの資源管理、のり養殖管理等の課題を計画的に普及推進しました。

(3) 食料等の生産基盤の整備

[農業の生産基盤の整備] (30a区画以上の水田整備及び水稲不耕起V溝直播栽培は累計)

①目標と実績		平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	関係課
		2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	
30a区画以上の水田整備	目標	27ha	83ha	114ha	141ha	160ha	173ha	建設課
	実績	25ha	78ha	112ha	146ha	*	*	
水稲不耕起V溝直播栽培	目標	576ha	800ha	1,120ha	1,440ha	1,800ha	2,200ha	普及課
	実績	576ha	569ha	587ha	596ha	*	*	
無人ヘリコプターの利用	目標	延4,880ha	延5,120ha	延5,340ha	延5,560ha	延5,780ha	延6,000ha	普及課
	実績	4,880ha	6,439ha	4,149ha	4,462ha	*	*	

②取り組みの概要

[30a区画以上の水田整備]

農作業の機械化による省力化と効率化を推進するために必要な30a区画以上の水田のほ場整備を実施し、平成20年度までに目標を上回る146haを整備しました。

[水稲不耕起V溝直播栽培、無人ヘリコプターの利用]

低コスト生産を実現するため、水稲不耕起V溝直播を推進しましたが、昨年より9haの微増で、実施面積596haで、目標には至りませんでした。

水稲不耕起V溝栽培については、入水管理による出芽率の低下や機械投資の採算性の確保を図るための団地化が課題ですが、省力化やコスト低減を図る優れた技術であることから、今後も着実に普及を進めていきます。

ポジティブリストに対応するため、無人ヘリコプターの農薬散布時の飛散防止の啓発・指導をしましたが、目標には至りませんでした。

[林業・木材産業の基盤整備]

(累計)

①目標と実績		平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	関係課
		2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	
高性能林業機械の導入	目標	(27台)	(31台)	(33台)	(36台)	(38台)	(40台)	林務課
	実績	(25台)	(33台)	(36台)	(44台)	*	*	
林道の整備	目標	2.4km	4.8km	7.2km	9.8km	12.4km	15km	林務課
	実績	1.0km	6.5km	11.5km	16.4km	*	*	

②取り組みの概要

[高性能林業機械の導入]

低コスト木材生産システムに対応した高性能林業機械8台を新たに導入し、現地見学会を5回、意見交換会を3回開催して、このシステムの普及推進を図りました。

[林道の整備]

市町への補助事業などにより、4.9kmの整備を推進しました。

[漁港及び漁場の整備]

①目標と実績		平成17年度 2005年度	平成18年度 2006年度	平成19年度 2007年度	平成20年度 2008年度	平成21年度 2009年度	平成22年度 2010年度	関係課
県管理漁港の整備	目標	(8か所)	→				→	西三河建設事務所
	実績	(8か所)	(8か所)	(8か所)	(8か所)	*	*	
漁礁・増殖場の整備	目標	(年2か所)	(年3か所)	(年2か所)	→		→	水産課
	実績	(2か所)	(3か所)	(1か所)	(1か所)	*	*	

②取り組みの概要

[県管理漁港の整備]

当地域では、一色漁港において漁港施設の整備を実施しました。

[漁礁・増殖場の整備]

広域漁場整備事業により鋼製魚礁とコンクリート魚礁を設置しました。

(4) 県内産食料等の消費と利用の促進

[消費者等のニーズの把握]

(累計)

①目標と実績		平成17年度 2005年度	平成18年度 2006年度	平成19年度 2007年度	平成20年度 2008年度	平成21年度 2009年度	平成22年度 2010年度	関係課
いいともあいちネットワークの拡大(再掲)	目標	55会員	59会員	62会員	65会員	→	→	農政課
	実績	57会員	64会員	79会員	104会員	*	*	

②取り組みの概要

前掲(P17)参照

[ブランド化の推進]

(累計)

①目標と実績		平成17年度 2005年度	平成18年度 2006年度	平成19年度 2007年度	平成20年度 2008年度	平成21年度 2009年度	平成22年度 2010年度	関係課
あいちの伝統野菜の産地化	目標	1品種	→	2品種	→	→	→	農政課
	実績	1品種	1品種	2品種	2品種	*	*	

②取り組みの概要

あいち中央農協管内の「碧南鮮紅五寸にんじん」、「早生かりもり」の産地化の推進を支援をしました。

[産地直売の促進]

(特産品・加工品の開発促進は累計)

①目標と実績		平成17年度 2005年度	平成18年度 2006年度	平成19年度 2007年度	平成20年度 2008年度	平成21年度 2009年度	平成22年度 2010年度	関係課
主な産地直売 施設の利用者	目標	年64万人	→				→	農政課
	実績	71.8万人	69.4万人	75.1万人	78.1万人	*	*	
特産品・加工 品の開発促進	目標	1品目	→	2品目	→	4品目	6品目	普及課
	実績	1品目	2品目	4品目	5品目	*	*	

②取り組みの概要

[主な産地直売施設の利用者]

産地直売施設イベント情報を把握し、ホームページを活用し、そのPRを図るなどの支援を行いました。昨年度に比べ3万人ほど利用者が増加しました。

[特産品・加工品の開発状況]

今年度、安城市のグループが「いちじくフルーツソース」を商品開発しました。

[地域食材の利用促進]

(累計)

①目標と実績		平成17年度 2005年度	平成18年度 2006年度	平成19年度 2007年度	平成20年度 2008年度	平成21年度 2009年度	平成22年度 2010年度	関係課
いいともあい ち推進店の拡 大	目標	43店	54店	60店	65店	→	→	農政課
	実績	55店	79店	100店	116店	*	*	

②取り組みの概要

地産地消を積極的に推進している食品加工・スーパー・飲食店を中心に推進を図り、16店舗増加することができました。

今年度も、スーパー、飲食店を中心に推進を図ります。

[三河材の認証制度の整備]

①目標と実績		平成17年度 2005年度	平成18年度 2006年度	平成19年度 2007年度	平成20年度 2008年度	平成21年度 2009年度	平成22年度 2010年度	関係課
三河材の認証 制度の整備	目標	(整備)	→				→	林務課
	実績	(整備)	(整備)	(整備)	(整備)	*	*	

②取り組みの概要

県産材の認証を普及するため、既存認証制度の区域を越えた新たな認証制度の構築について、業界関係団体を指導しました。

[三河材の利用促進]

①目標と実績		平成17年度 2005年度	平成18年度 2006年度	平成19年度 2007年度	平成20年度 2008年度	平成21年度 2009年度	平成22年度 2010年度	関係課
三河材の利用 量	目標	年3千m ³	年3.2千m ³	年3.4千m ³	年3.6千m ³	年3.8千m ³	年4千m ³	林務課
	実績	2.7千m ³	5.1千m ³	4.4千m ³	4.0千m ³	*	*	

②取り組みの概要

木材産地の形成と品質の安定した製材品の供給を目的とした指導と、木材の需要拡大を図るため県産材の普及・啓発を図りました。

(5) 食料等の流通体制の整備

[業務用需要への販路拡大]

(累計)

①目標と実績		平成17年度 2005年度	平成18年度 2006年度	平成19年度 2007年度	平成20年度 2008年度	平成21年度 2009年度	平成22年度 2010年度	関係課
加工用野菜契 約取引産地の 拡大	目標	1産地	2産地	3産地	4産地	→	→	農政課
	実績	1産地	2産地	3産地	4産地	*	*	

②取り組みの概要

冬春きゅうりについて、JA西三河とJAあいち中央の2産地が漬物用として、冬にんじんでは、JAあいち中央がジュース、カット野菜用として契約取引しておりますが、20年度に新たにJAあいち中央でたまねぎ（剥き玉）の取組を実施しました。

[海外輸出の推進]

①目標と実績		平成17年度 2005年度	平成18年度 2006年度	平成19年度 2007年度	平成20年度 2008年度	平成21年度 2009年度	平成22年度 2010年度	関係課
輸出品目	目標	(-)	(-)	(2品目)	(3品目)	(4品目)	(5品目)	農政課
	実績	(1品目)	(2品目)	(3品目)	(4品目)	*	*	

②取り組みの概要

輸出促進のため「あいちの農産物輸出促進会議」を開催するとともに、農協等に輸出意向調査を実施しました。

なお、輸出品目は、洋ラン、大葉、次郎柿、メロンです。

[市場流通の効率化の推進]

①目標と実績		平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	関係課
		2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	
再編後の卸売市場数	目標	18市場	16市場	14市場	12市場	10市場	9市場	農政課
	実績	22市場	22市場	22市場	21市場	*	*	

②取り組みの概要

卸売市場数は、青果が1減の7(0)、花き4(2)、水産10(3)、計21(5)となっています。カッコ内数字は、規模未満市場で内数です。

今後、県整備計画に基づき、市場情勢、市場関係者の意向を踏まえて合併・統合・廃止など再編整備を継続的に推進していきます。

[輸送方法の改善]

(累計)

①目標と実績		平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	関係課
		2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	
バケット輸送を実施する切り花産地	目標	1産地	→				→	農政課
	実績	1産地	1産地	1産地	1産地	*	*	

②取り組みの概要

西尾市の農事組合法人レインボーはバラを生産しており、引き続き全国各地へバケットを利用した輸送により出荷しています。

(6) 担い手の育成等の推進

[新規就業者の確保・育成]

①目標と実績		平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	関係課
		2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	
新規農業就業者の確保	目標	年41人	→				→	普及課
	実績	29人	26人	25人	11人	*	*	
新規林業就業者の確保	目標	(年30人)	→				→	林務課
	実績	(31人)	(26人)	(36人)	(45人)	*	*	
新規漁業就業者の確保	目標	(年30人)	→				→	水産課
	実績	(53人)	(35人)	(15人)	(24人)	*	*	

②取り組みの概要

[農業]

農業高校・県農大・市町・農協・新規就農予定者の情報交換を積極的に行いました。また、新規就農者に対しては、個別・集合研修を実施し、育成を図りましたが、目標に到達できませんでした。

なお、新規就農者の市町別内訳は次のとおりです。

岡崎市3名、碧南市1名、一色町4名、吉良町2名、幸田町1名

[林業]

愛知県林業労働力確保支援センターと連携し、林業関係高校生、定年退職者等を対象に、就業相談活動や現場作業を中心とした就業前研修等を実施しました。

[漁業]

少年水産教室を2回開催し、述べ43名の参加を得ました。また、パンフレット「愛知の水産業」を3,000部作成し、小中学生の見学者に配布しました。

[経営体の育成]

①目標と実績		平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	関係課
		2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	
認定農業者	目標	727人	827人	977人	1,127人	1,277人	1,428人	農政課 普及課
	実績	675人	863人	962人	981人	*	*	

②取り組みの概要

地域担い手育成総合支援協議会に出席等し、市町、JA等の協力を得て、認定農業者の少ない部門の農家について、重点的に認定農業者の拡大に努めました。また、認定農業者者の経営改善計画の作成を支援しましたが、目標を達成できませんでした。

[女性や高齢者の能力発揮]

(いずれも累計)

①目標と実績		平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	関係課
		2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	
家族経営協定の締結	目標	122件	132件	142件	151件	160件	166件	普及課
	実績	120件	136件	153件	162件	*	*	
農村女性による起業数	目標	12件	14件	15件	18件	20件	23件	普及課
	実績	15件	18件	20件	20件	*	*	

②取り組みの概要

[家族経営協定の締結]

経営内の役割分担を明確にし、女性や後継者が積極的に経営に係わるよう家族経営協定締結に意欲的な農業者を支援し、調印式の開催も支援しました。

市町、農業委員会と連携を図った結果、新たに9戸が協定を締結しました。

[農村女性による起業数]

意欲ある女性農業者に経営改善、衛生管理等のセミナーやコンサルテーションを開催し、農産物の加工や直売等の起業化を支援しました。新たに1件を育成しましたが、1件が廃業したため、昨年と同件数にとどまりました。

[価格安定制度等への加入促進]

①目標と実績		平成17年度 2005年度	平成18年度 2006年度	平成19年度 2007年度	平成20年度 2008年度	平成21年度 2009年度	平成22年度 2010年度	関係課
価格安定制度 加入率（野菜）	目標	71%	→		72%	→	73%	農政課
	実績	74%	81%	79%	72%	*	*	

②取り組みの概要

農協や農協の部会を通して、野菜価格安定事業の制度説明を実施し、農家の理解を図り、計画的な生産・出荷を行いました。

なお、今年度から市町村別の統計数値が未公表となったため、交付予約数量／農協共販数量により、加入率を算定しました。

(7) 支援組織の育成強化

[地域の特徴を生かした支援組織の育成]

(累計)

①目標と実績		平成17年度 2005年度	平成18年度 2006年度	平成19年度 2007年度	平成20年度 2008年度	平成21年度 2009年度	平成22年度 2010年度	関係課	
地域営農組織 活動の支援	目標	2地区	→				→		普及課
	実績	2地区	2地区	6地区	6地区	*	*		

②取り組みの概要

岡崎市新堀地区と安城市の土地利用組織に加え、農地・水・環境保全向上対策営農分科会3組織、岡崎市の里とまちの交流型研究会1組織について、活動を支援しました。

[農業協同組合等の合併支援]

①目標と実績		平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	関係課
		2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	
合併後の農業協同組合数	目標	(21)	(21)	→			(15)	農政課
	実績	(21)	(21)	(20)	(20)	*	*	
合併後の農業共済組合数	目標	3	→				1	農政課
	実績	3	3	1	→			
合併後の土地改良区数	目標	22	→					建設課
	実績	28	23	22	21	*	*	
合併後の森林組合数	目標	2	→	1	→			林務課
	実績	2	2	2	1	*	*	
合併後の沿岸漁業協同組合数	目標	6	→				1	水産課
	実績	6	6	6	6	*	*	

②取り組みの概要

[農業協同組合数]

平成19年4月1日、海部地域で2JAが合併し、20JAとなりました。合併計画15地区のうち14地区において合併が概ね完了となりました。20年度は、合併未了地区を中心として、情報把握に努めました。

[農業共済組合]

平成19年11月2日設立総会において、西三河農業共済組合の設立が承認されました。その後、設立認可、設立登記の手続きが完了し、平成20年2月8日に組合が発足し、目標を達成しました。

[土地改良区]

平成20年度までに、7土地改良区が合併し、1土地改良区が解散しました。

(合併による削6、解散による削減1)

今後は、要請に応じて、合併を支援していきます。

[森林組合]

岡崎市・額田町森林組合合併推進協議会が設立され、協議会7回、幹事会6回が開催され、平成20年10月1日に岡崎森林組合が誕生しました。

[漁業協同組合]

平成17年4月に合併しなかった組合について意見聴取及び合併指導してきましたが、時期尚早との意見が多数をしめているので、引き続き推進母体の組織化を図るとともに、研修会、検討会の開催など合併支援を行います。

3 森林、農地及び漁場の適正な保全

(1) 森林・農地の適正な利用促進

[森林整備地域活動支援交付金制度への支援]

①目標と実績		平成17年度 2005年度	平成18年度 2006年度	平成19年度 2007年度	平成20年度 2008年度	平成21年度 2009年度	平成22年度 2010年度	関係課	
森林整備地域 活動実施協定 を締結してい る森林施業計 画面積	目標	年1,150ha	—————→						林務課
	実績	1,621ha	1,998ha	1,611ha	1,792ha	*	*		

②取り組みの概要

森林所有者等が共同して、集約的、計画的に森林整備を進めるため、森林整備地域活動支援交付金制度を適切に運用し、地域の森林施業の団地化、共同化の促進を図りました。

[担い手等への農地の利用集積と耕作放棄地の解消]

(いずれも累計)

①目標と実績		平成17年度 2005年度	平成18年度 2006年度	平成19年度 2007年度	平成20年度 2008年度	平成21年度 2009年度	平成22年度 2010年度	関係課
耕作放棄地の 解消	目標	15ha	35ha	55ha	75ha	95ha	115ha	農政課
	実績	15ha	31.7ha	56.7ha	79.0ha	*	*	
農地の流動化 面積	目標	4,500ha	4,850ha	5,150ha	5,450ha	5,750ha	6,050ha	農政課
	実績	4,475ha	4,800ha	5,109ha	5,401ha	*	*	

②取り組みの概要

[耕作放棄地の解消]

5月に市町担当者等に対し、耕作放棄地説明会を開催。市町においては、耕作放棄地の現況調査を実施。調査結果に基づき、耕作放棄地の解消計画を策定するとともに、市町・農業委員会と連絡を密にし、農地保有者への個別指導により耕作放棄地の解消に努めました。

[農地の流動化]

西尾市における農地面的集積支援モデル事業の実施等、各種事業を活用するとともに、地域担い手育成支援協議会を活用し、農地の集積を推進しました。

[中山間地域等直接支払制度への支援]

①目標と実績		平成17年度 2005年度	平成18年度 2006年度	平成19年度 2007年度	平成20年度 2008年度	平成21年度 2009年度	平成22年度 2010年度	関係課
直接支払制度 の対象面積	目標	年80.5ha	→	→	→	→	→	農政課
	実績	76.0ha	76.0ha	76.0ha	76.0ha	*	*	

②取り組みの概要

中山間地域等直接支払い制度の集落協定の合意が得られず、自主管理で実施している集落については、農地の適正管理が引き続き行われるよう指導していきます。

(2) 自然災害の防止

[農地等の自然災害防止]

(いずれも累計)

①目標と実績		平成17年度 2005年度	平成18年度 2006年度	平成19年度 2007年度	平成20年度 2008年度	平成21年度 2009年度	平成22年度 2010年度	関係課
ため池や排水 機場の整備	目標	2か所	5か所	7か所	8か所	11か所	13か所	建設課
	実績	2か所	5か所	8か所	8か所	*	*	
ため池や水路 の環境整備	目標	1か所	3か所	→	→	4か所	→	建設課
	実績	3か所	4か所	4か所	4か所	*	*	
ため池の耐震 診断	目標	2か所	3か所	→	→	→	→	建設課
	実績	2か所	3か所	3か所	7か所	*	*	
ため池や水路 の利活用に対 する支援	目標	1地区	2地区	3地区	4地区	5地区	6地区	建設課
	実績	1地区	3地区	5地区	7地区	*	*	

②取り組みの概要

農業用施設は、農業生産に限らず、農地の自然災害を防止するとともに、地域防災の重要な役割を担っています。農村地域の自然生態系の保全や回復、水辺空間の創造等環境と調和した整備を進めました。

ため池の耐震診断については、当初予定していた刈谷市の岩ヶ池、幸田町の力ヶ入池、光明寺池に加え、幡豆町の谷村池、千石池、鳥羽中池、茅場池の4か所を追加実施しました。

また、ため池や水路の利活用については、安城市で4か所、西尾市、吉良町、幡豆町で各1か所の合計7か所を実施しています。

[山地災害の防止]

(いずれも累計)

①目標と実績		平成17年度 2005年度	平成18年度 2006年度	平成19年度 2007年度	平成20年度 2008年度	平成21年度 2009年度	平成22年度 2010年度	関係課
治山施設の整備	目標	46ha	92ha	139ha	186ha	233ha	280ha	林務課
	実績	63ha	106ha	151ha	186ha	*	*	
保安林（民有林）の配備面積	目標	4,924ha	4,941ha	4,958ha	4,975ha	4,992ha	5,010ha	林務課
	実績	5,009ha	5,041ha	5,111ha	5,127ha	*	*	

②取り組みの概要

[治山施設の整備]

地元からの治山施設要望箇所を「地域住民の安全性の確保」等の観点から現地調査し、山地災害の恐れのある森林については、治山施設の整備を計画的に進め、山地災害の防止に努めました。

[保安林（民有林）の配備面積]

災害の防備を始めとする公益的な機能の発揮が特に必要な森林について、保安林の配備を進めた結果、岡崎市、幡豆町で新たに土砂流出防備保安林が指定されました。

(3) 環境と調和した森林や農地の整備

[森林整備の推進]

①目標と実績		平成17年度 2005年度	平成18年度 2006年度	平成19年度 2007年度	平成20年度 2008年度	平成21年度 2009年度	平成22年度 2010年度	関係課	
間伐の実施	目標	年648ha	—————→						林務課
	実績	315ha	387ha	359ha	404ha	*	*		

②取り組みの概要

森林所有者へ間伐の普及促進を図るとともに、治山事業、矢作川水源基金等により計画的に間伐を実施しました。また、平成21年度から始まる「あいち森と緑づくり事業」の取り組みについて、各地での事業説明会を行いました。説明会において、間伐の効果的な活用を働きかけましたが、材価の下落により、林業生産活動は低迷しており、低レベルな実績となりました。

[生態系や景観に配慮した親水空間等の整備]

(累計)

①目標と実績		平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	関係課
		2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	
ため池や水路の環境整備(再掲)	目標	1か所	3か所	→	→	4か所	→	建設課
	実績	3か所	4か所	4か所	4か所	*	*	
生態系・景観に配慮した河川の改修整備	目標	(82km)	(88km)	(94km)	(100km)	(100km)	(100km)	西三河・知立建設事務所
	実績	(84km)	(92km)	(101km)	集計中	*	*	
地域住民による川岸への植樹	目標	(32km)	(35km)	(38km)	(40km)	(40km)	(40km)	西三河・知立建設事務所
	実績	(34km)	(35km)	(35km)	(35km)	*	*	

②取り組みの概要

[ため池や水路の環境整備] 前掲(P34)参照

[生態系・景観に配慮した河川の改修整備・地域住民による川岸への植樹]

河川改修時に、河川の特性を生かしつつ、治水との技術的整合などの検討を行い、整備を実施しました。

植樹については、県ホームページにより制度のPRを行い、植樹は、地域住民、地元市町村の連携のもとに実施しました。

[魚道等の整備]

(累計)

①目標と実績		平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	関係課
		2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	
魚道等の設置	目標	1か所	→	→	→	→	→	建設課
	実績	1か所	2か所	3か所	3か所	*	*	

②取り組みの概要

自然生態系に影響を与えないよう、対象魚種の特性に配慮した構造物の整備に努め、平成19年度までに目標を上回る3か所を整備しました。

(4) 水質の保全活動

[干潟などの造成]

①目標と実績		平成17年度 2005年度	平成18年度 2006年度	平成19年度 2007年度	平成20年度 2008年度	平成21年度 2009年度	平成22年度 2010年度	関係課
鉄鋼スラグを 活用した干潟 の造成	目標	(2ha)	(7ha)	(12ha)	(17ha)	(22ha)	(27ha)	水産課
	実績	(0ha)	(0ha)	(0ha)	(0ha)	*	*	

②取り組みの概要

鉄鋼スラグによる干潟ができないため、矢作ダム堆積砂を活用し0.25ha、河川浚渫砂による5.8haの干潟・浅場造成を実施しました。新たな干潟造成材を確保するため、次年度以降も矢作ダム堆積砂等による造成を行い、造成材としての適性を把握していきます。

[集落排水施設の整備]

①目標と実績		平成17年度 2005年度	平成18年度 2006年度	平成19年度 2007年度	平成20年度 2008年度	平成21年度 2009年度	平成22年度 2010年度	関係課	
集落排水施設 の処理人口	目標	年4万人	—————→						建設課
	実績	3.51万人	3.50万人	3.81万人	3.86万人	*	*		

②取り組みの概要

農村環境の改善と併せて公共用水域の水質を保全するため、農業集落排水施設の整備を推進しました。

平成16年度までに供用している39地区に加え、平成17年度から平成20年度の4年間で岡崎市の葵第一地区、豊西地区、西尾市の福地東部地区、吉良町の友国地区の4地区の供用を開始しました。

[アユ再生プロジェクトの実施]

①目標と実績		平成17年度 2005年度	平成18年度 2006年度	平成19年度 2007年度	平成20年度 2008年度	平成21年度 2009年度	平成22年度 2010年度	関係課
アユ漁獲量の 増大	目標	(230t)	(260t)	(300t)	—————→			水産課
	実績	(189t)	(220t)	(179t)	集計中	*	*	

②取り組みの概要

矢作川水系河川で調査を実施するとともに、冷水病対策を基本とした放流プログラムの普及啓発を行いました。

[海・川等の清掃活動の支援]

①目標と実績		平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	関係課
		2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	
漁業者と県民による海や川のクリーンアップ活動の支援(再掲)	目標	年7か所	—				→	水産課
	実績	7か所	7か所	7か所	7か所	*	*	
河川や水路の清掃、除草活動への参加者(再掲)	目標	年500人	—→	年800人	年1,200人	年1,600人	年2,000人	建設課
	実績	512人	473人	739人	1,457人	*	*	

②取り組みの概要
前掲(P19)参照

(5) 環境負荷の低減と資源の循環利用

[家畜排せつ物の適正処理]

(累計)

①目標と実績		平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	関係課
		2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	
家畜排せつ物処理高度化施設の整備	目標	2か所	6か所	10か所	14か所	18か所	22か所	農政課
	実績	3か所	6か所	8か所	11か所	*	*	

②取り組みの概要
環境巡回などの指導により岡崎市の酪農家と吉良町の養豚農家が堆肥舎と乾燥処理施設を自己資金で整備しました。また、高浜市では、畜産振興事業により、養鶏の農事組合法人で糞処理施設を再整備し、累計で11か所となりました。

[農産物環境安全推進マニュアルの策定]

(累計)

①目標と実績		平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	関係課
		2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	
農産物環境安全推進マニュアルの導入(再掲)	目標	—	—	1産地	3産地	4産地	5産地	普及課
	実績	—	2産地	3産地	14産地	*	*	

②取り組みの概要
前掲(P20)参照

[エコファーマーの認定]

(累計)

①目標と実績		平成17年度 2005年度	平成18年度 2006年度	平成19年度 2007年度	平成20年度 2008年度	平成21年度 2009年度	平成22年度 2010年度	関係課
エコファーマーの認定者	目標	304人	369人	434人	499人	564人	631人	普及課
	実績	191人	762人	959人	1,237人	*	*	

②取り組みの概要

碧南地区のタマネギ、ニンジン、カンショ部会で産地ブランド化を推進するため、エコファーマー認定の機運が高まり、部会員全員の認定を目指して部会員の意識啓発活動を実施した結果、部会員全員を認定することができ、大幅に認定者を伸ばすことができました。

[バイオマスの利活用]

①目標と実績		平成17年度 2005年度	平成18年度 2006年度	平成19年度 2007年度	平成20年度 2008年度	平成21年度 2009年度	平成22年度 2010年度	関係課	
バイオマスの利活用（稲わら）	目標	年2.6万t	—————→						農政課
	実績	2.6万t	2.6万t	2.6万t	2.6万t	*	*		
バイオマスの利活用（食品製造残さ）	目標	(年7万t)	(年7.2万t)	(年7.4万t)	(年7.6万t)	(年7.8万t)	(年8万t)	農政課	
	実績	(8.0万t)	(8.0万t)	(8.7万t)	(9.9万t)	*	*		
バイオマスの利活用（せん定枝）	目標	(年1,120t)	(1,480t)	(1,760t)	(2,020t)	(2,280t)	(2,500t)	農政課	
	実績	(974t)	(1,204t)	(1,517t)	(1,400t)	*	*		

②取り組みの概要

コンバインで収穫されるため、ほとんどが細断され、すき込みにより、ほ場に還元され、一部飼料、敷料等に利用されました。

食品製造残さやせん定枝のバイオマス利用を促進をするため、会議・イベントなどの機会を捉えて周知徹底を図りました。

[農業用使用済プラスチックの再生利用の推進]

①目標と実績		平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	関係課
		2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	
農業用使用済プラスチックの再生利用率	目標	48%	50%	55%	60%	—————→		農政課
	実績	75%	63%	85%	81%	*	*	

②取り組みの概要

農業への使用済プラスチックの分別について、機会あるごとに周知を呼びかけ、JAが計画的に回収し、再生利用の支援をしました。

[菜の花エコプロジェクトの推進]

(累計)

①目標と実績		平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	関係課
		2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	
菜の花エコプロジェクトによる栽培面積の拡大	目標	—	1ha	2ha	3ha	4ha	5ha	農政課
	実績	0.2ha	2.2ha	5.9ha	5.4ha	*	*	

②取り組みの概要

7市町で菜の花の採油用品種の栽培があり、西尾市では採油用として実施されています。

4 農山漁村における定住の促進

(1) 農山漁村における就業機会の増大

[就業機会の創出]

(観光ルート及び特産品・加工品の開発促進は累計)

①目標と実績		平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	関係課	
		2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度		
「農・山・海の 幸づくりル ート」(観光 ルート)の開 発(再掲)	目標	—	1ルート	2ルート	3ルート	4ルート	5ルート	農政課	
	実績	—	3ルート	7ルート	10ルート	*	*		
主な産地直売 施設の利用者 (再掲)	目標	年64万人	→						農政課
	実績	71.8万人	69.4万人	75.1万人	78.1万人	*	*		
特産品・加工 品の開発促進 (再掲)	目標	1品目	→	2品目	→	4品目	6品目	普及課	
	実績	1品目	1品目	2品目	5品目	*	*		

②取り組みの概要

[農・山・海の幸づくりルートの開発]

前掲(P16)参照

[主な産地特売施設の利用者]

前掲(P27)参照

[特産品・加工品の開発促進]

前掲(P27)参照

(2) 生活環境の整備

[農山漁村の生活環境整備]

(林道の整備は累計)

①目標と実績		平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	関係課	
		2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度		
集落排水施設 の処理人口 (再掲)	目標	年4万人	→						建設課
	実績	3.51万人	3.5万人	3.81万人	3.86万人	*	*		
林道の整備 (再掲)	目標	2.4km	4.8km	7.2km	9.8km	12.4km	15km	林務課	
	実績	1.0km	6.5km	11,5km	16,4km	*	*		

②取り組みの概要

[集落排水施設の処理人口]

前掲(P37)参照

[林道の整備]

前掲(P25)参照